

# 人と繋がり、みんなで考える「地域未来デザインプロジェクト」

1 / 4

生成AIを活用した課題設定とフィールドワーク

## 名古屋経済大学高蔵高等学校(私立)

学科：普通科、商業科

### 特色：

1907年、創立者・市邨芳樹先生が時代に先んじて女子商業教育を実践する名古屋女子商業学校を開校したことを礎としています。現在は男女共学で、普通科特進コース、進学コース、商業科の3つの教育課程を有し、さまざまなニーズに合わせた教育を実践。個々の能力を伸ばさせ、のびのびと輝く、より優れた人材を育成します。



## 事例サマリー



**活用機材：** 機材：ipad・iphone  
ソフト：生成AI(ChatGPT・Copilot)



**活用場面：** 「地域の方々と地域課題を考えるワークショップ」  
フィールドワーク



**育成する力：** 主体的に取り組む力・協働性・表現力



**対象学年：** 商業科2年生

## 1分でわかる！／ 取り組みの概要

名古屋経済大学高蔵高等学校商業科の活動「地域未来デザインプロジェクト」は、新しいカリキュラムへ組み込むことを目指した課外活動として先行実施されました(対象生徒：約10名)。この活動は、「商業教育とは真の人間教育」という創立者の言葉を重視する教育理念に基づき、学びのフィールドを学校外の地域に広げ、人と繋がることを目的としています。

夏休みを活用して、金沢工業大学によるワークショップを実施しました。そこで瑞穂通商店街や秋葉神社からの要望として、古くから神社で保管している大提灯の山車の復活が話題となりました。DXの要素として、課題設定の深掘りに生成AI(ChatGPT・Copilot)を利用しています。また大提灯の組み立て方法を次の世代へ継承するために映像を撮影し、組み立て方のアーカイブ化に挑戦するなど、活動の中にDXを活用しています。また、生徒の主体性を引き出すため、大人と対等な立場で意見交換ができる環境を意識的に設定しています。

11月には商店街で行われたジョギングと清掃活動を組み合わせたプロギングに参加し、1月には今回の取り組みをマイプロジェクトアワードAICHIサミットにて報告をしました。また、2月にはSLOW ART CENTER NAGOYAで活動報告イベントを開催し、当日はマルシェ、名古屋市博物館と考古学における連携や、名古屋市立大学芸術工学部映像研究室の大学院生との協働で実施する屋外映像投影などをしました。今後は地域との継続的な繋がりを維持し、将来的には空き店舗を高校生がDXを活かして運営をする展開も視野に入れていきます。

## お話を聞かせてくれた先生



畑 浩資先生

理科 教諭 入学委員 商業科検討委員  
座右の銘：一に人物、二に伎倆  
趣味：ボクシング

Q.なぜ今回の取り組みをしようと思ったのですか？(背景・課題)

建学の精神である「一に人物、二に伎倆」を具現化するため。また創立者市邨芳樹の教えにある人物教育として、地域の人々と関わること。また生徒の主体性に注目し、学びを自分事としてほしいという思いからスタートしました。  
生成AIを活用しながら学びのフィールドを学校外に広げ、新しい商業科カリキュラムへ組み込むことを目的としています。

授業設計のポイント

①生徒の主体性を最大限に引き出す「対等な立場での対話を可能とする環境設計」

生徒が活動を自分事とし、主体的に取り組むために大人と対等な立場で話せる環境を設計に取り入れました。金沢工業大学建築学部の宮下教授が提唱する「関連学」(多様な立場の視点から物事を捉えるという考え方)を参考にしました。

②発表をすることで「学びの定着」と「表現力の向上」

生徒たちが地域で実践した活動やその成果を発表することで、学びを定着させ、目標とする力の一つである表現力を高めることを目指しました。マイプロジェクトアワードAICHIサミットに選考され、有識者や他校の高校生への発表を実施しました。

③生成AIを活用した「課題設定の深掘り」

生徒が自ら見出した課題をさらに深化させるために生成AI(ChatGPT・Copilot)を活用しました。

プラスα！『理科の教科にもDXを取り入れる』

【対象】普通科進学コースの文系3年生全員(約200名)

【テーマ】「日常生活×科学(サイエンス)」

【DX導入】実験・観察を中心とする理科探究学習に必要な実験機材などを導入することでデータ取得、データ分析のDX化を進める。

【授業流れ】グループで探究テーマを設定し、課題設定→実験計画作成→実験観察→データ取得・分析→考察→新たな課題の設定という探究学習のサイクルを年間で5回程度経験。

【学び】日常生活との関わりを認識することで文系生徒にも理科教育の重要性を認識させる。データ分析力、論理的思考力、表現力、課題設定能力などの育成を目指し、科目横断ポスターセッションを通じて学びをさらに深化させる。

取り組みの全体像／年間スケジュール

生徒	【8月】 高大連携ワークショップに参加し、地域住民と共に地域の課題を設定	【9～10月】 フィールドワークを中心とした地域活動を実施	【11～1月】 学校見学会&マイプロ発表	【2月】 活動報告イベント企画・運営・参加
	【4～5月】 企画検討・外部との連携	【8月】 金沢工業大学 秋葉神社 瑞穂通商店街との連携	【9～10月】 地域連携・イベント準備	【11月】 事例発表準備・イベント準備 名古屋市立大学との連携
教員				【12月～】 地域連携・イベント準備 名古屋経済大学との連携

▼地域の方々とのミーティングの様子



～生徒の感想より～

地域の人と関わることが多くなり、大人と話すことが増え、視点の異なる意見を聞くことができました。自分の考え方とは異なるところに面白さを感じ、貴重な経験になったと思います。

たくさんの方と関わり、一緒に活動することの楽しさや難しさを学びました。地域の新しい発見や魅力も感じられ、もっとたくさんの人とさまざまな形で関わりたいと感じました。

▼秋葉神社の大提灯山車の組み立て



## Q. 本取り組みで工夫したこと、成功のポイントを教えてください

成功のポイントは「外部人材の導入により新鮮な気持ちでスムーズに学びに向かう姿勢が構築できたこと」です。生徒と教員に加え、地域の方々や大学教員、民間企業の方々に関わることで多角的な視点で意見を交換することができました。また金沢工業大学建築学部の宮下教授が提唱する「関連学」の考え方を学ぶことで主体的に取り組むことができました。多くの方々との対話的で協働的な取り組みが生徒の学びをさらに深化させることに繋がりました。

## 実践！DX成功のヒント

## 1 課題の深掘りに生成AIを活用する

生成AIを初期段階の「課題設定の深掘り」に活用する。

🔄 生成AIを活用することで深められるポイントを探してみる

## 2 対等な立場の環境を用意する

生徒が意見を出し、認められることで、「自分たちが出したアイデアなんだ」という認識を持ち、自発的に活動に取り組む

🔄 外部の方との対等に議論するような場を設計に盛り込んでみる

## 3 発表の場を用意することで学びを確かなものにする

取り組みを発表するアウトプットの場を用意することで学びを確かなものにする。

🔄 活動の最後に発表会や共有会といったアウトプットの場を設ける

## 取り組みを通じて養われた力(仮)



専門的な知識・スキル  
Technical skills

- ・映像アーカイブ
- ・生成AI活用
- ・商業実践



考える力  
Thinking skills

- ・関連学
- ・論理的思考力
- ・批判的思考力
- ・課題設定力



関わる力  
Social skills

- ・協働性(地域連携)
- ・表現力
- ・他者理解
- ・共感力



伸ばし続ける力  
Meta skills

- ・主体性
- ・判断力
- ・メタ認知

## 【事例集を手にする先生方へ:メッセージ】

今回の活動を通して「人と人」「人と地域」を高校生の取り組みの中で繋げていくことは、生徒にとって大きな学びになることがわかりました。また理科の授業を通して、教科学習における探究的な学びは非常に有益です。探究学習とDX化の推進は、これからの教育を進めるのに必要な取り組みです。何か一つでも参考にしていただければ幸いです。